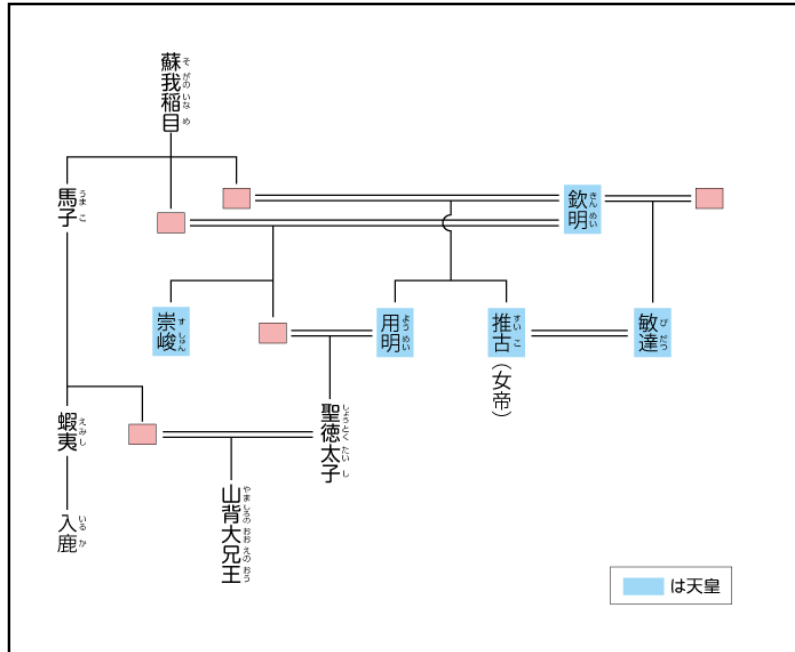


# 大和朝廷と豪族

大和朝廷では、豪族たちがそれぞれの勢力を競っていました。中でも有力だった蘇我氏と天皇の関係を読み取ってみましょう。また、聖徳太子が、天皇中心の国づくりを進めようとした背景について、考えてみましょう。

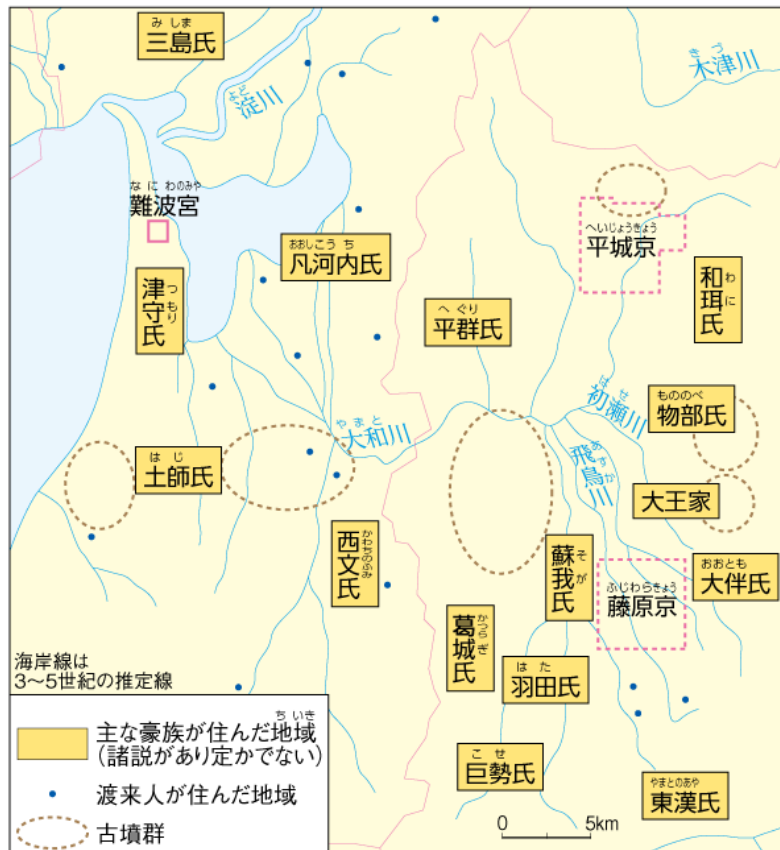


↑ ア 蘇我氏と天皇家の系図

## 蘇我氏と天皇、聖徳太子との関係

資料アは系図といって、一族の代々のつながりを表したものです。この系図から、蘇我氏が自分たちの子や孫を天皇と結婚させていたことがわかります。また、用明天皇の子ども聖徳太子も、蘇我氏とつながりをもっていることがわかります。

蘇我氏は天皇家とつながりをもつことで、大きな権力をもち、自分たちにとってより有利な政治を行おうとしました。



## 朝廷と豪族の争い

大和朝廷は、天皇を中心とした、豪族たちの政権です。豪族たちは、朝廷でより大きな権力をもつために、たがいに争っていました。

中でも大きな力をもった蘇我氏と物部氏は、大陸から伝えられた仏教を受け入れるかどうかをめぐり、天皇家をまきこんで激しく対立しました。その結果、蘇我氏が物部氏をほろぼし、権力をさらに強めていきました。

こうした豪族たちをどのように従えるかが当時の天皇のなやみの一つでした。

← イ 4～6世紀ごろの大和周辺の豪族